えていらっしゃることに感動しました。

その後、私たちはのぞみ園のお年寄りの方々も含めてレクリエーションをしました。まず私たちが歌を歌いました。『ふるさと』を歌い終わって、お年寄りの方々の顔を見ると、泣いている方もいらっしゃいました。私はびっくりしましたが、内心とてもうれしいでした。

レクリエーションの後、みんなで肩をもみました。「ありがとう」という声に、ちょっと孫の気分を味わうことができました。その後、お年寄りの方と対話をしました。どのお年寄りの方も同じことを繰り返し話されるので、少し戸惑いました。しかし、この体験学習の前に神村学園に行った際に教えて頂いた「傾聴」という言葉、つまり耳を傾けて心で聴いてあげることが大切であることを思い出し、対話することができました。お年寄りと話をしていると、時間の流れがとても速く感じられました。

▶みんなで楽しいレクリエーション（さつま園）

集合の時間になったとき、別れるのがとてもつらく感じられました。私には祖父も祖母もいません。それでお年寄りと接することに、少しためらいと怖さを感じていました。でも1日福祉体験活動でお年寄りと接することはとても楽しく感じられ、何だか嬉しかったです。私はたった1日の体験学習でしたが、自分たちは1週間以上ここにいたような気持ちになりました。

この体験を今後生かし、いろいろなことに役立てていきたいと思いました。また、お年寄りに対しての考え方も変わり、お年寄りが大好きになりました。

次にこのような福祉体験活動の機会があったら、今回の体験を生かし、さらに充実したものにしたいです。

▲牛が監督「しっかり草を刈れよ」（平牧場）

薩摩中一年　宮後　幸生君

6月21日は職場体験学習がありました。一年生は農業体験です。僕は餅田君、池田君、内倉君と組んで、中津川で花を育てていらっしゃる森永正文さんのお手伝いをさせていただきました。

最初、「花」をやることに決まったときは、楽しく楽ができそうだと思っていました。それは、伸びた葉や花を切るくらいのことだろうと思っていたからです。しかし、実際にやってみると、とても大変でした。一番きつかったのは、決められた場所に同じ苗箱を並べる作業です。箱を運んでいると、腰が痛くなってとてもつらいでした。また、移植作業や除草、水やりなどの作業も大変でした。しかし、やり方が分かると、少しずつ楽しくなってきました。

一緒に作業をしながら、森永さんが花の栽培の苦労話だけでなく、夢やロマンを語ってくださいました。僕は、「花の栽培は大変だけど、やりがいのある仕事なのだ」と思いました。

森永さんは、いろいろな機械を取り入れ、効率的な作業ができるように工夫していらっしゃいました。そして、市販の道具を改良し、自分で道具を作っていらっしゃいました。僕も、身の回りのことを自分で気づき、どのようにしたいかを考え、工夫できるようになりたいです。また、花の世話の仕方が少しだけでも分かったので、これから自分の家や学校の花の手入れなど手伝いも進んでしたいと思います。また機会があれば、森永さんの手伝いに行き、僕が知らないことをもっともっと学びたいです。

▶商品だから大事に運んで！まかせとき（神園和昭さん宅）